

果樹有機栽培の 可能性を探る

天童市で実践講座



現地視察では実際の樹体を前に、たくさんの質問が飛び交っていた

【天童市】落葉果樹の有機農業実践講座がこのほど、天童市にある舞鶴荘を会場に開催された。2日間の日程で行われ、全国から有機農業の実践者や新規就農者ら85人が参

加した。

この講座はNPO法人「有機農業参入促進協議会」（山下一穂代表）が、有機農業を始めたい人を支援しようと全国各地で開催しているもの

で、果樹の講座は7回目、本県では初の開催となる。

開会式では同協議会の鶴田志郎副代表理事が「有機農業の持つ戦略的価値を考慮し、農業経営を再考するチャンスにしてほしい」とあいさつ。続いて行われた基調講演では、農研機構・北海道農業研究センターの池田成志主任研究員が「微生物の力を利用する有機栽培には、新しい農業技術につながる可能性がある」と述べた。その後、実践農家6人による事例発表

会とパネルディスカッションが行われた。

2日目はサクランボ栽培で有機農業を実践している佐藤善博さん（天童市）と遠藤秀一さん（東根市）の園地を視察しながら、現地検討会が行われた。

長野県から参加した菰田央さん（45）は就農2年目。「全国の栽培者と知り合い、有機農業の知識を学んだ。これからの経営に役立てたい」と意欲を語った。